

パナマ内政・外交（２０２１年９月定期報告）

【ポイント】

- ファイザー・ビオンテック社のワクチンが毎週パナマに到着するとともに、アストラゼネカ社ワクチンもパナマに到着した。
- ２２日より、保健省は、中程度及び重度の免疫抑制剤の服用者に対するワクチン３回目接種を開始する旨発表した。
- １９日、観光庁は、１０月１日より、新型コロナウイルスワクチン未接種の観光客に対するワクチン接種プログラムの開始につき発表した。
- ２７日より、保健省は、パナマ県全域で夜間外出禁止措置を撤廃する旨発表した。
- ８日、モイネス外相は、コスタリカを訪問し、ソラーノ・コスタリカ外相及びアルバレス・ドミニカ共和国外相等と会談した。
- １８日、モイネス外相は、メキシコにおいて開催された第６回CELAC首脳会合に出席した。
- ２１日から２３日まで、コルティソ大統領は、第７６回国連総会出席のためNYを訪問し、一般討論演説を行ったほか、パナマ経済活性化に向けた投資誘致を目的として、米経済界を中心とした訪問も行った。
- ２０日から２４日、コルティソ大統領のNY訪問に同行したモイネス外相は、フェルナンデス米 국무次官等と会談したほか、カザクバエフ・キルギス外相との間で、両国の外交関係樹立にかかる文書に署名した。
- ２７日から２８日、モイネス外相はワシントンに公式訪問し、バイデン政権関係者（ニコルス米 국무省 국무次官補及びマヨルカス米 国家安全保障長官等）との会談のほか、米上院・下院議員らと会談した。
- ２９日、コルティソ大統領は、パナマを訪問したシン米 国家安全保障副補佐官（国際経済担当）をヘッドとした本国代表団と会談した。

【本文】

●内政

１ 新型コロナウイルスワクチンの到着等

９月、ファイザー・ビオンテック社（以下、ファイザー社）との直接契約分のワクチン149万5,260ドース及びアストラゼネカ社との直接契約分のワクチン44万1,600ドースがパナマに到着した（本年１月から９月末までの到着合計数：ファイザー社：631万3,320ドース、アストラゼネカ社：128万6,400ドース）。なお、９月末までに、550万1,067ドースのワクチン接種（ファイザー社：475万2,723ドース及びアストラゼネカ社：74万8,344ドース）が実施された。

2 ワクチン3回目接種の開始

22日より、保健省は、中程度及び重度の免疫抑制剤の服用者（腫瘍又は血液がん患者、臓器移植患者、HIV患者等）に対するワクチン3回目接種を開始する旨発表した。ワクチン3回目接種の第1フェーズでは、以下の対象者へ接種を実施するとした。また、上記対象者に対するワクチン3回目の接種は、2回目のワクチン接種以降、少なくとも28日後の接種を推奨としている。

（当館注：その後、パナマ政府はワクチン3回目接種対象者の追加につき発表しており、10月13日現在、医療従事者及び治安業務従事者、55歳以上の者、入院患者・自宅療養者及び18～54歳の慢性疾患患者も対象となっている。）

3 観光客へのワクチン接種プログラムの開始

（1）19日、観光庁は、10月1日より、新型コロナウイルスワクチン未接種の観光客に対するワクチン接種プログラム（Vacatur-Panama）の開始につき、発表した。

（2）同プログラムは、30歳以上で、少なくとも2泊以上対象ホテルの予約を行い、観光庁によって登録されたホテルやツアーオペレーターを通じて、事前にワクチン接種の申請を行うこととしている。さらに、2回目接種のために、6週間滞在または次回接種時の再入国を行うこと等の要件が示された。

4 夜間外出禁止時間の撤廃等

27日より、保健省は、パナマ県全域で夜間外出禁止措置を撤廃する旨発表した。また、同措置に伴い、レストラン等の営業時間制限にかかる措置も撤廃された。

●外交

1 モイネス外相のコスタリカ訪問

8日、モイネス外相は、「カリブ海の三角地帯（Triangulo Caribeno）」と名付けられた新たな対話プラットフォームの開始に向けた会合へ参加するため、コスタリカを訪問し、ソラーノ・コスタリカ外相及びアルバレス・ドミニカ共和国外相等と会談した。同会合では、域内の経済、政治及び社会情勢に関し、共同戦略の策定により対処していくことを目指すとともに、民主主義や人権の尊重を常に促進していくとした。また、今次会合には、ソーサ貿易省外務次官も同席し、域内での貿易機会や投資誘致を目的としたニアショアリングといった最先端のビジネスモデルの促進についても協議された。

2 モイネス外相の第6回CELAC首脳会合への出席

18日、モイネス外相は、メキシコにおいて開催された第6回CELAC首脳会合にコルティソ大統領の名代として出席した。今次会合に出席した首脳は、ラテンアメリカ・カリブ宇宙機（ALCE）の創設協定へ署名したほか、中南米地域においては初となる、同地域のワクチン・医療計画についても採択した。また、同首脳らは、今次首脳会合中に1,500万ドル以上を調達したラテンアメリカ・カリブ地域における災害及び気候変動の影響に対する基金の創設についても合意したほか、2022年のCELACの議長国として、唯一の立候補国であるアルゼンチンを採択した。

3 コルティソ大統領の第76回国連総会出席及びNY訪問

（1）21日から23日まで、コルティソ大統領及び同夫人は、第76回国連総会出席のためNYを訪問した。なお、今次NY訪問には、モイネス外相、マルティネス貿易産業大臣、エスキルセン観光庁長官及びブランズ・スポーツ庁長官等が同行した。

（2）コルティソ大統領は、NY滞在中、一般討論演説を行ったほか、アルバロ・コスタリカ大統領及びアビナデル・ドミニカ共和国大統領、マルパス世界銀行総裁及びアルゲタ世界経済フォーラム理事会理事等と会談した。

（3）また、同大統領は、パンデミック後のパナマ経済活性化に向けた雇用創出を伴う投資誘致を目的として、AI KellyビザCEO、Edward Knightナスダック Executive Vice President、Libra Group（米多国籍企業）幹部、投資関連企業等との会談も行った。

（4）コルティソ大統領一般討論演説概要

ア パンデミックは、世界の国々に対し途方もない課題を課し、その課題の1つはワクチン接種である。これに対し、パナマは全国民に十分で、安全かつ効果的なワクチンを調達し、あと数週間で集団免疫を達成する見込みである。

イ また、多くの国が直面しているもう1つの課題は不法移民である。パナマは、移民の人権を尊重し、避難所の提供及び医療・食糧支援に対し責任を持って取り組んでいる。地域にとって重大な人道危機に素早く対処するため、できる限り早く共同で努力していくことにつき、国際社会に対し訴える。

ウ さらに、パンデミック後も直面する最大の課題は、気候変動である。同問題についても、パナマは自身の役割を果たしている。パナマは世界において「カーボンネガティブ」を達成した3か国の1つである（当館注：パナマ以外の2か国は、ブータンとスリナム）。

エ 最後に、パナマが地域的および世界規模の課題に立ち向かうため、国家間の橋渡し役としての役割を提供している。我々は、全ての国に必要なワクチン

の提供し、できる限り早い世界経済の回復のために、世界規模で取り組んでいくことが可能である。

4 モイネス外相のNY訪問

(1) 20日から24日、コルティソ大統領のNY訪問に同行したモイネス外相は、フェルナンデス米 국무次官、シンガポール、伊、ノルウェー及びUAE代表、中米統合機構(SICA)及び北欧諸国外相及びイベロアメリカ事務局(SEGIB)代表等との会談のほか、カザクバエフ・キルギス外相との間で、両国の外交関係樹立にかかる文書に署名した。

(2) また、同外相は、プリンケン米 국무長官及びUzra Zeya米 국무次官(文民安全保障・民主主義・人権担当)やラブロフ露外相との立ち話も行った。

(3) さらに、同外相は、カーボンネガティブを達成したラムディン・スリナム外相及びDoma Tshering駐国連代表部ブータン大使との会談したほか、「保護責任、残虐行為の防止における女性と女兒の役割」に関する閣僚会合、第10回民主主義共同体閣僚級会合及びコンコルディア年次総会等にも出席した。

5 モイネス外相のワシントン訪問

(1) 27日から28日、モイネス外相はワシントンを公式訪問し、ブライアン・ニコルス(Brian Nichols)米 국무省 국무次官補、アレハンドロ・マヨルカス(Alejandro Mayorkas)米 国家安全保障長官(DHS)及びホアン・ゴンサレス(Juan Gonzalez)米大統領特別補佐官兼米国家安全保障会議(NSC)筆頭局長(西半球担当)といったバイデン政権関係者との会談のほか、Timothy Kaine上院西半球小委員会委員長(民主党)、Ted Cruz上院外交委員会委員長(共和党)及びGregory Meeks下院国際関係委員会議長(民主党)等の米上院・下院議員らと会談した。

(2) また、今次訪問では、パンデミック後のパナマ経済の回復策の一環として、投資誘致及びプロジェクト支援の促進に向けて、Mauricio Claver-Carone米州開発銀行(IDB)総裁との会談も行った。

6 シン米国家安全保障副補佐官のパナマ訪問

(1) 29日、パナマを訪問したダリープ・シン(Daleep Singh)米国家安全保障副補佐官(国際経済担当)をヘッドとした本国代表団がコルティソ大統領等と会談し、気候変動、安全保障、テクノロジー及びエネルギーにつき協議した。

(2) シン副補佐官は、G7諸国のイニシアチブである「より良い世界の再建(Build Back Better World)」の優先事項であるデジタルインクルージョン、気候変動、ジェンダー平等への投資に取り組むべく、中南米諸国(コロン

ビア、エクアドル）への訪問の一環としてパナマを訪問した。

（３）また、米代表団は、コンセプション環境大臣、サボンヘ公共事業大臣及びロハス投資促進担当大臣等とも会談し、グリーン経済の達成、グリーンサプライチェーンの獲得及びインフラ・プロジェクト等における米国からの資金調達に対するパナマ側の関心についても協議した。

（４）さらに、バスケス運河庁長官（ACP）との会談では、将来的な両大洋間の道路インフラ・プロジェクト及びパナマ運河のカーボンネガティブ目標に関するテーマについて協議した。なお、同会談はパナマ側より、モイネス外相、マルティネス貿易産業大臣及びピノ治安大臣等も同席した。

（了）